

# 平成29年度 府中市立矢崎小学校 学校経営計画

校長 刀禰 俊明

## 《学校教育目標》

人間尊重の精神を基調とし、人や自然・地域と豊かにかかわり、自己をみがき、社会の一員としての自覚をもち、未来を拓き、心身共に健康な児童の育成を目指す教育を推進するとともに、基礎・基本を身に付ける指導の徹底と個性を生かす教育に努める。

- ◎学ぶ考える力（知）・・・自ら学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びや方法を身に付け、自ら問題を見出し、考え判断し、表現力・実践力・想像力豊かな子供を育てる。
- 思いやる心（徳）・・・自らの感じ、考える力を伸ばすとともに、友達のよさと自らのよさを認め大切にし、人や自然と仲良くし共に生きる子供を育てる。
- 明るく元気（体）・・・心身共に健康で明るく、よりよい生活習慣を身に付けるとともに体力や運動能力の向上に努め、目標に向かって努力し、最後までやりぬく子供を育てる。

### □今年度の重点目標

今年度は、子供たちの豊かな「学び」と「育ち」を目指し、「第2次府中市学校教育プラン」7つの柱の中でも「確かな学力を育てる(知)」を実現するために、学校教育目標の3つのうち「学ぶ考える力」を重点目標として、昨年までの校内研究の成果を生かし、各教科、道徳等での「問題解決的な活動」や「自らの考えをもち、友達等との言語活動」を通して育成するとともに、21世紀に生涯学び続けることのできる基礎を育成し、国際社会で活躍できる人づくりを目指す。

## I 目指す学校

### (1) 基本理念

私たち教職員は、教育公務員としての責務を自覚し、サービスの厳正に努めるとともに、何よりも子供たちの健やかな成長を願い、教育できる喜びと誇りをもち、「自立心」と「社会性」を育てるために、児童・保護者・地域の人々から信頼と協力を得て教育実践に全力を尽くす。

自立とは、様々な問題、課題を自身の力で解決していくこと、社会性は、社会と調和して生活していく資質ととらえる。この自立と社会性が形成されるためには、子供自身が「自分でできる自信」をもち、「まわりの人は自分の仲間である」と認識することが重要であり、私たち教職員は絶えず自分の行っていることが、その援助となっているかを点検しなければならない。私は、全教職員の連携・協働の下、全てに心を尽くし、心を通わせ、心を込めて、援助する教育＝『勇気付け（後押し）の教育』を推進することを通して、常に次の掲げる学校構築を目指すことを基本理念とする。

☆「元気」「感謝」「感動」「あいさつ」があふれる学校

☆「安全」で「安心」して生活できる学校

### (2) 目指す具体的な学校像

学校の役割は、個々の自立を促し、社会性を育てる（日本の未来をつくる人材を育てる）ことである。そのために、児童一人一人に「確かな学力を育てる」「豊かな心をはぐくむ」「健やかな体をつくる」ことを、学校が地域、保護者と協働して進めることが重要であると捉える。と同時に、いじめや体罰を根絶し、児童が安全で安心して生活できる学校、児童の教育に携わる教職員の働く意欲を喚起していく必要もある。以上を、「水と緑と文化の矢崎小学校」の特色を生かし、次に掲げる学校づくりに邁進する。

- 児童に、確かな学力と豊かな心・社会性を身に付けさせる学校
- 元気にあいさつや感謝があふれる学校
- 安全教育を推進するとともに、いじめや体罰を根絶し、児童が安全で安心して生活できる学校
- 地域や保護者と連携、協調し、発信することで、良好な関係を築き、地域・保護者から信頼される学校（コミュニティ・スクールの構築）
- 教職員が教育公務員としての自覚をもち、4つの能力の向上に努めるなかで、仕事に誇りをもち、働きがいのある学校であるとともに、職員のワークライフバランスのとれた学校

### （3）特色ある教育活動

- 「水と緑と文化の矢崎小」を推進する地域を生かした活動  
（多摩川、郷土の森、田畑、企業等の活用）
- 交流を通して豊かな心情を育てる活動  
（地域、幼小・小中、高齢者との連携・交流等の推進）
- 郷土府中を愛する活動  
（郷土の森博物館、地域探索等を通じた学びの推進）
- 「地域の学校」づくりを推進する活動  
（水辺の楽校、農業まつり、雑田堀用水路清掃、安全マップづくり・防犯活動等を通じた地域の方々との連携強化）
- オリンピック・パラリンピック教育の充実  
（4つのテーマと4つのアクションの推進、年間計画の作成と実践、アスリートとの交流等を通じた学びと態度の育成）
- 伝統・文化の良さを実感する活動  
（府中や日本の伝統・文化を学ぶ活動の推進）

### （4）目指す児童像

- 進んであいさつし、元気で明るい気持ちで生活できる子
- 学校や友達、地域のために働ける子
- 決まりを守る子
- 仲間と助け合える子
- 進んで学習する子
- 進んで運動する子
- 進んで読書できる子
- 最後までやりとげる子

## II 中期的な目標と方策

本校は、地域がもつ自然や文化、地域に暮らす人々とのかかわりを重視し、実践的な体験活動を通して、児童の学習意欲や自然や文化に親しむ心情をはぐくむ教育を特色ある教育活動と位置付けて、教育実践を推進している。その教育活動が、現在、未来に渡り推進し続けていくことのできる強みでもある。

この本校がもつ強みを生かすとともに、さらに学校・保護者・地域の連携を深め、小中連携も踏まえた地域の学校として、さらに期待に応え信頼される学校となるために、以下の中期的な目標を設定する。

### （1）確かな学力の向上

- 教科等の学習において、年間指導計画、授業改善推進プラン、週の指導計画に基づく児童主体の学びを充実させる。
- 十分な学習時間を確保し、朝学習や毎時の授業を通して基礎・基本定着を図るとともに、各教

科等においては、小中連携も踏まえ「問題解決的な学習」や「自らの考えをもち、友達等との言語活動」を推進することによって、児童の学びに対する主体性や思考力・判断力・表現力を育成する。また、学び方や学習習慣を身に付けさせるために、様々な学習活動、学習方法、学習形態を工夫する。

- I C T教育環境整備支援事業によるタブレット型パソコンを活用した授業に取り組む。
- 地域の豊富な学習教材を活用し、本校ならではの特色ある教育活動を創造する。
- 体育の授業等で体づくり運動を充実させ、体力向上に向けて取り組み学習に向かう気力・体力を充実させる。
- 特別支援教室関係者・関係諸機関との連携と効果的な活用し、個に応じた教育の充実を図るとともに、基礎学力の向上を図ることで不登校の未然防止につなげていく。

## (2) 豊かな心と社会性の育成

- 自他の生命を大切にし、正義感や自己有用感、自尊感情、社会貢献意識、人権意識などを高めるために、道徳授業や人権を尊重する教育、異学年交流活動を充実させる。
- 「矢崎の子どものやくそく」を徹底させるとともに、挨拶・礼儀などの基本的な生活習慣の育成、多様な人とかかわる活動等、小中連携も踏まえ社会性を培う。
- 生活指導体制、特別支援教育体制を充実させ、認め合い・支え合い・高め合う豊かな人間関係を育成する。

## (3) 地域の学校づくりの推進

- 学校からの情報発信を充実させ、説明責任を果たすとともに、保護者・地域の声を反映した教育活動を推進する。
- 保護者・地域と協力し、児童の安全に対する意識や危機回避能力を育み、防災教育・防災体制を構築する。
- 学校運営にあたっては、効率化と事案決定の適正化を図り、サービス事故防止や個人情報等の管理の徹底を図ることで、地域に信頼される学校をつくる。

# Ⅲ 今年度の取組目標と方策

## 1 教育活動の目標と方策

### (1) 確かな学力の向上

#### (ア) 学習規律、学習習慣の定着

- 始業・終業のあいさつの徹底、発言の約束等を徹底する。
- 火・水・金曜日の朝学習を徹底する。
- 家庭学習の学年×10分をさらに推進する（課題学習＋自主学習）。

#### (イ) 基礎的、基本的な学力の向上

- 東京ベーシックドリルを活用した朝学習を推進する。
- 「立ち戻る学習」「繰り返す学習」「確かめる学習」「既習事項を活用する学習」を推進する。

#### (ウ) 問題解決力の向上

- 「問題解決的な学習」や「自らの考えをもち、友達等との言語活動」を、各教科等で推進し、児童の思考力・判断力・表現力を向上させる授業を展開する。
- 「問題解決的な学習」を通して、教員一人一人の授業力、指導力を向上させる校内研究を推進する。

#### (エ) I C T教育の推進

- 東京都 I C T教育環境整備支援事業を活用し、児童に I C T機器活用力を高める取組を推進する（校内研究との関連を図る）。

○ICT機器をコミュニケーション力向上のためのツールと位置付け、児童のコミュニケーション力や表現力の向上を目指す。

(オ) 教員の指導力向上

- 学年間交換授業の実施（各学期1単元以上実施）することで、学年運営力・授業力を強化する。
- 学校経営方針を自己申告書に連携させることで、学校経営・運営に対する意識を向上させる。
- 府教研に積極的に参加させ、研究授業を引き受けさせるなど、主体的に研究活動に取り組ませる。
- 校内OJT研修をさらに充実させるとともに、都の研修会や自主研修会への参加を促す。

(2) 豊かな心と社会性の育成

(ア) 人権教育、道徳教育の推進

- 6月に人権教育プログラムを活用した人権教育研修会を実施するとともに、職員会議や金曜日の生活指導連絡会等を活用して日々の児童への指導を振り返らせることで、教員の人権感覚を向上させる。
- 道徳の教科化に向け、授業力を向上させるために、全教員で校内研究に取り組む。
- 道徳授業35（34）時間を確実に実施させるために週案簿での確認を行うとともに、道徳の内容項目を記入させ、年間指導計画に印をつけることで全項目について授業を実施させる。

(イ) 規範意識の醸成

- 生活指導担当主幹教諭を中心に生活指導部を機能させ、「矢崎の子どものやくそく」を徹底させる取組を行うとともに、授業規律の徹底、あいさつの励行を重点として取り組む。「矢崎の子どものやくそく」については、代表委員会や各委員会を活用して、児童レベルで守り合う意識を高める取組を行う。
- 「セーフティー教室」をはじめ、府中スクールサポーターを活用して、児童の健全育成の徹底を図る。
- 学級活動、道徳教育を通した心の醸成を積極的に進める。

(ウ) 「いじめをしない、させない、許さない」児童の育成

- 毎学期はじめの学級活動や道徳の時間で「いじめ」についての指導を行い、児童自らが振り返りを行うとともに、代表委員会等を活用し、児童レベルで啓発し合う取組を行う。
- 月曜日の児童朝会での校長講話で「いじめ」についての話を取り上げ、「いじめは絶対に許されないこと」を徹底する。
- 保護者、地域の皆様に「矢崎小学校 いじめ防止基本方針」を示し、いじめ根絶に向けた指導への協力を依頼する。

(エ) 体験学習の充実（府中水辺の楽校、農業体験等）

- 4年生の総合的な学習の時間に多摩川を生かした学習を計画し、府中水辺の楽校スタッフとの協働した学びを創造し、推進する。
- 5年生の総合的な学習の時間に米づくりや大根づくりを通した学習を計画し、コミュニティースクール・コーディネーターや地域の方からの指導を生かした体験学習を推進する。
- サツマイモ栽培学習をコミュニティースクール・コーディネーターとの連携を密にし、1～4年生で計画・実施する。
- 3年生では、大東京卸売センターや地域の様々な会社・工場を学びの教材として活用させていただき、「実際に見る」「触れ合う学習」を推進する。

(オ) 府中を愛する心の醸成

- 「郷土府中に根ざした道徳資料」を活用した道徳授業を推進するとともに、生活科や社会科を通して学区域や府中市にある府中まつわる教材等を扱い、学ぶことで府中を愛する心を醸成する。
- 地域に根ざした行事を紹介し、参加を呼びかけ、次代の府中を担う児童を育成する。

(3) 地域の学校をつくる。

- 関係者評価等外部評価を実施し、結果を分析し学校運営に生かす。
- 学校だより、ホームページ、ブログ等、学校発信の情報の充実を図る。
- 家庭との協働で、食と健康、安全の意識を育成する。
- 地域活動、地域行事等に積極的に参加し、保護者・地域との一層の連携と府中を愛する児童・教職員を育成する。
- 地域機関、地域の方との連携し、防災教育を充実し、防災体制を築く。

2 重点目標と方策

上記の教育活動の目標と方策を受けて、重点目標と数値目標を設定し、目標達成をめざす。

(1) 児童に響く教育実践から確かな学力の向上を図る。

- 学習習慣 1日学年×10分の学習習慣を身に付ける。 95%
- 読書 全学年 一人年間30冊以上の読書をする。 95%
- 第5、6学年実施の学力テストの数値を昨年度以上に高める。
- 学年間交換授業の実施 各学期1単元以上実施

(2) 心に響く活動から豊かな心と社会性の育成を図る

- 「矢崎の子のやくそく」やきまりを守る子 90%
- 進んであいさつする子 95%
- 場に合ったいいいな言葉遣いができる子 70%
- 係や委員会活動に進んで取り組む子 90%
- 感謝の気持ちを表せる子 95%
- 友達を大切にし、協力できる子 95%
- 物事を最後までやり遂げる子 90%
- 安全に気を付けて生活できる子 95%

(3) 学校と地域・保護者との響き合う関係から地域の学校をつくる。

- 学校運営連絡協議会や学校評価、学校公開時（行事も含む）のアンケート等からの声を真摯に受け止め、地域・保護者からの信頼を得る。 95%
- 学校公開を行う。 年10回以上
- 学校から定期的かつ適切に情報を発信する。学校だより10回以上・ブログ週4日以上
- 児童参加による地域との交流を実施する。（学校行事他） 年10回以上
- 教職員を地域の活動や行事に参加させ、地域とより深い関係を築く。

(4) 東京都オリンピック・パラリンピック教育の推進

(ア) 年間指導計画の作成

- 各学年、年間35時間程度を目安に、年間指導計画を作成する。

(イ) 「4×4の取組」の実施

- 4つのテーマ「オリンピック・パラリンピック精神」「スポーツ」「文化」「環境」と、4つのアクション「学ぶ（知る）」「観る」「する（体験・交流）」「支える」を学校全体で、また学年に応じて指導内容を明らかにし、実施していく。

(ウ) 「5つの資質」の育成

- 「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質を育成する取組を行う。

(エ) トップアスリートとの交流

- 帝京大学駅伝競走部員、サントリーサンゴリアス選手、パラリンピアンをはじめ、トップアスリートとの交流機会を設ける。

### 3 市教委施策に対する取組目標

#### (1) 府中版コミュニティ・スクールの推進

○農業関連の体験活動においてコーディネーターと担当教員が地域協力者と連携を図り、計画した活動を滞りなく実施する。

- ・ 5年 … 米づくり体験（田植え、稲刈り、脱穀）  
大根づくり体験（収穫後、府中市「農業まつり」において販売体験実施）
- ・ 1～4年 … サツマイモ栽培体験

○府中水辺の楽校と連携した多摩川体験学習

- ・ 4年 … 総合的な学習の時間に「多摩川たんけん隊」を位置付け、一年をかけて多摩川に棲む生き物、河川敷の植物・昆虫・鳥、多摩川の源流探索を行い、多摩川を深く知るとともに、ふるさととして愛する心を育成する。

○地域を生かした学習

- ・ 3年 … 大東京卸売センターを教材とした学習を社会科年間計画に位置付け、お店の思いや工夫等を学ぶとともに、学んだ成果を卸売センターの「矢崎小の部屋」で発表する。

#### (2) 小中連携、一貫教育の推進

##### (ア) 「学び」「育ち」の連続性の推進

- 「学び」では、教科の授業展開を小中が連携して取り組み、学びの連続性をさらに実現していく。
- 「育ち」では、重点指導課題を決め、連携して指導していく。
- 各分科会を中心に、小中の実際の交流場面を洗い出し、実現していくとともに、さらに充実した活動を見出す。

##### (イ) 三中、南町小との連携強化

- 管理職レベルの連携を密にするとともに、コーディネーターをさらに活用し、教員レベルでの連携強化、活動の創造を促す。また、3校の連絡会を生かす中で、全教員参加の小中連携、一貫教育実施協議会の内容を充実させていく。

#### (3) 学校経営支援予算の活用

○学校経営支援予算を有効に活用し、適切な人材を確保するとともに、子供たちへの支援のために充てる。

<具体的な支援場面>

- ・ 個別の学習支援
- ・ 低学年算数におけるTT指導
- ・ 学校図書館司書
- ・ 理科学習支援
- ・ 高学年家庭科支援
- ・ 夏期休業中の水泳指導補助員
- ・ 合理的配慮支援

#### (4) 副校長等校務改善支援事業の活用

○週計画や月行事の管理・作成を依頼するとともに、6年全国学力調査保護者公表の児童質問紙調査クロス集計、学校評価アンケートの集計など各種調査集計を行ってもらう。